

## サムエル記下 24 章 1～25 節

2026 年 1 月 28 日(水)

はじめに

本日はサムエル記下 24 章 1～25 節を学びます。小見出しに従うと、「ダビデの人口調査」という記事です。ダビデ王は、「人口調査」という罪を犯したので、主なる神は、イスラエルの民に「三日間の疫病」(13 節)を送り、裁きました。

「人口調査」が罪であるというのは、わたしたちにすれば奇妙かもしれませんが、イスラエルの特有の考え方です。王とは、権力をもつ人間のことでなく神御自身です。イスラエルの民は全員が王である神のものです。神は御心のままに民の命を創造し「百倍にも増やす」ことができますから、神こそが人口調査はふさわしいのです。

他方、世俗の国家の王や権力者は、自分の支配権と繁栄を維持するために、納税と軍務ができる民の数を調べたわけです。新約聖ルカによる福音書 2 章 1 節に登場するローマ皇帝アウグストゥスはその典型です。

ダビデはそのような意味で、「人口調査」をしました。つまりイスラエルの王として立てられた者であるにもかかわらず、まるで世俗の王のように振る舞ったということです。ここに罪があります。

そこで主なる神は、預言者ガドを遣わし、ダビデ王とイスラエルを裁き、罪を取り除きます。それが「三日間の疫病」の流行でした。しかしダビデは、民の苦しむ姿を見て、自分自身が罪を負うべきであると主に向かっていいました。

そこで主なる神は、預言者ガドをつかわし、ダビデにエブス人アラウナの麦打ち場を買い取らせ、そこに祭壇を築き、犠牲礼拝を行いました。このアラウナの土地は、歴代誌上 22 章 1 節によれば、エルサレム神殿建設のための用地になるのです。したがってサムエル記下の結びは、何と、思いがけず、ダビデの子ソロモンによる神殿建設を予告するものになっています。

次に 21 章 1 節～24 章全体を箇条書きにすると、次のようになります。

- ①21 章 1～14 節ダビデ治世下の大飢饉
- ②21 章 15～22 節ペリシテ人との戦い
- ※22 章 1 節～23 章 7 節ダビデの感謝の歌と最後の言葉。
- ③23 章 8～39 節ダビデの勇士たちの紹介
- ④24 章 1～25 節ダビデの人口調査という罪～「三日の疫病」

ご覧のように、①は大飢饉が語られています。サウルがギブオン人を殺害したことに対する刑罰として飢饉があるのです。そして④は、やはり「三日間の疫病」が語られています。イスラエルの民の罪に対する神の刑罰です。このように、主なる神がイスラエルの罪を罰している、と告げているわけです。

## I サムエル記下 24 章 1～25 節の話の流れ。

この箇所は三つのエピソードから成り立っています。

1～9 節は、ダビデが人口調査をしたこと。10～17 節は、ダビデの罪に対して神が三日の疫病

をもたらしたこと。18～25 節は、ダビデがエブス人アラウナから麦打ち場を買いとって、そこで犠牲礼拝をささげたということ。

第一部 1～9 節 ダビデ、人口調査という罪を犯す。

第二部 10～17 節 主なる神、預言者ガドをとおして裁きを告げる、  
「三日間の疫病」

第三部 18～25 節 ダビデ、エブス人アラウナから麦打ち場を買い取り、そこに祭壇を築き、  
犠牲礼拝を献げる。

## II サムエル記下 24 章 1～9 節の解説

### 【1～9 節】

さてこの部分は、ダビデが人口調査をしたという記事ですが、「主は、イスラエルとユダの人口を数えよ」とダビデを誘われた」という御言葉が難解です。一体、神は、人間を、罪を犯すことへと誘惑することがあるのでしょうか。そのような神は福音の神なのではなくサタンではないのでしょうか。わたしたちはこの御言葉をどう理解したらよいのでしょうか。

そこでまずわたしたちは、すでに主なる神がサウルに悪霊を送ったという記事を学んだことを思い起こしたいのです。そこでは、主なる神は、サウル王に、世俗の王と同じくダビデに対する妬みをもたらしたわけです。それが悪霊をもたらすということでした。それによってダビデに試練を与える働きをさせておられたわけです。

さらには主なる神が、エレミヤ書 17 章 9～10 節では、「人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。誰がそれを知りえようか。心を探り、そのはらわたを究めるのは 主なるわたしである」といっています。つまり主なる神は、わたしたちの心を調べ、また試すことがある方なのです。

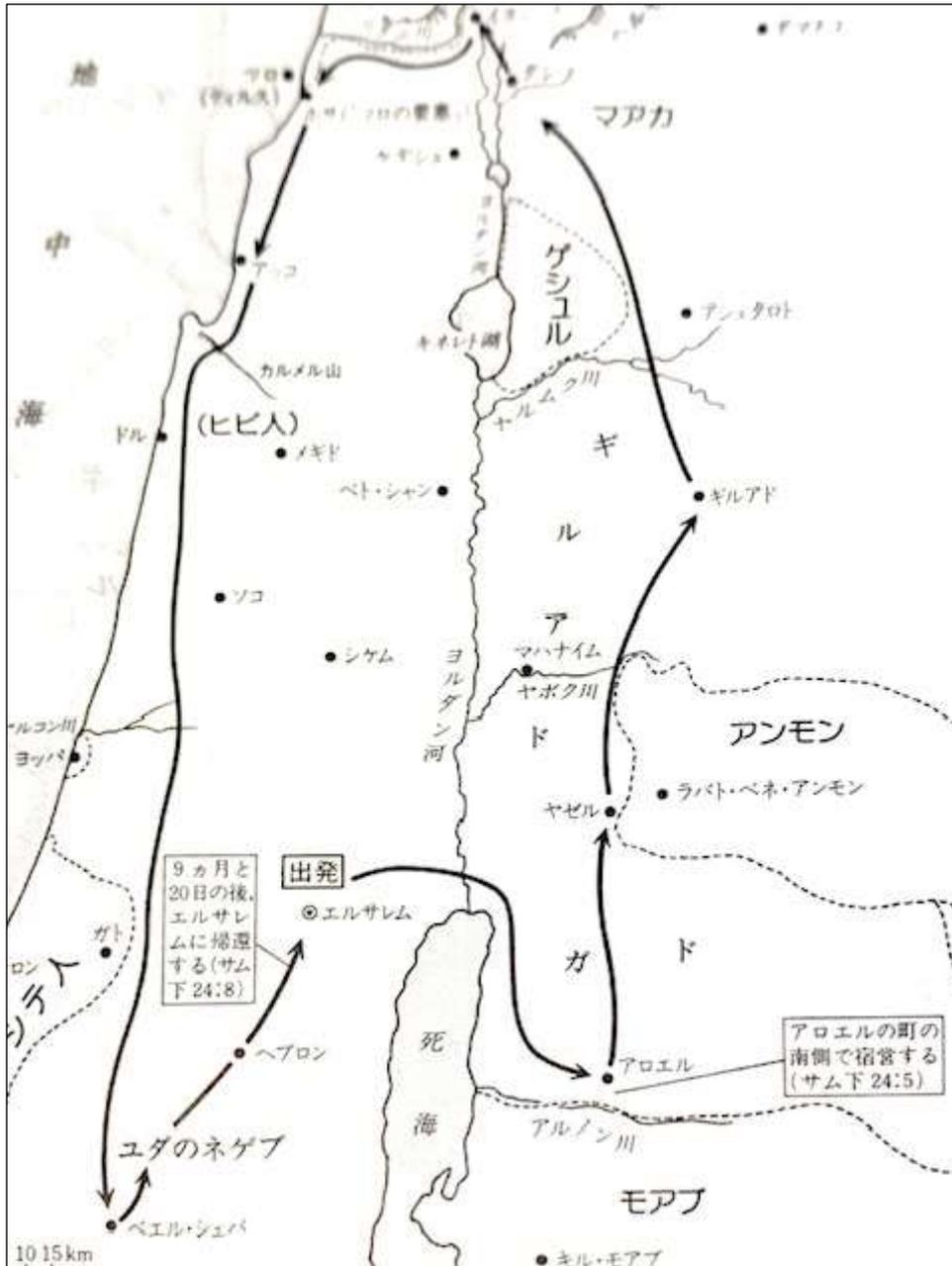
もちろん主なる神は、福音の神でありインマヌエルであり、わたしたち人間の味方です。けれども、わたしたちが主なる神の味方であるのではないのです。罪人を招くために来たと主イエスがいつているように、主なる神が罪人の味方とされるという恵みの中で、わたしたちはその都度、神の味方にさせていただくのです。

その上で、わたしたちは、1 節において「主の怒りが再びイスラエルに対して燃え上がった」という御言葉を、まず受け止めるべきでしょう。この「再び」とは、前の大飢饉の記事を念頭においています。サウル王がギブオン人を殺害したという罪に対する刑罰として大飢饉があったわけです。それと同じく、具体的なことは分かりませんが、イスラエルの民が何等かの罪を犯し、それに対して主なる神が怒っている、そう告げています。

したがって主なる神が、ダビデに向かって語った罪への誘惑の言葉とは、実は、最初から神の裁きの言葉であった、ということができましよう。

### 【2～9 節】

ここは、ヨアブがダビデ王の命令を受けて、人口調査を実施したという記事です。ヨアブはダビデの命令にとまどっているように見えます。しかし彼はダビデ直属の軍人として、命令を遂行します。



御覧のように、ヨアブたちは、いわば大きく右回りに廻って人口調査をしたことが分かります。9 節を見ると、イスラエルには 80 万人、ユダには 50 万人の戦士がいたことが分かります。

【10 節】

ダビデは、人口調査を終えると、「民を数えたことはダビデの心に呵責となった」というのです。ダビデは、主なる神に罪を告白し、次のようにいっています。

- 「重い罪を犯した」
- 「僕(しもべ)の悪」
- 「大変愚かなことをした」

神でもない一人の人間が、神の権能に属することに土足で踏み込み、世俗の王のように自分の力であるかのように振る舞ったのです。主なる神は、人間の命の創造主です。だからこそ神だけが、

真の羊飼いとして民の数を数えることができるのです。

ところで罪を犯したダビデには未来がありません。自分の犯した罪という黒々とした現実が目の前にあるばかりで、そこで時間が止まったようになるからです。

しかし、もしも未来が開かれるとするなら、それは神の裁きを受け、罪を取り除いていただくことよってのことです。罪の赦しと共に未来が開かれるのです。

そこで主なる神は、ガドという「先見者」をダビデに遣わしました。先見者は、預言者の旧いかたちです。幻視と神の言葉が未分化で、それを一体になったまま語りました。やがて神の言葉が優位となり「預言者」となるわけです。

ここで主なる神はダビデに対して三つの裁きを告げています。

- ①七年間の飢饉がおそうこと
- ②三か月間、ダビデが敵に追われること
- ③三日間、疫病がおそうこと。

主なる神は、何と、ダビデに対してどのような裁きを下すべきかを相談したのです。「イスラエルの王として、あなたはどうするのか」と問うているのです。つまり主なる神は、ダビデをイスラエルの王として、御自分の奉仕者として用い続けている、ということです。そこでダビデは、③三日間の疫病を選びます。そのため北端のダンから南端のベエル・シェバまで、7万人が疫病のために死んだわけです。

この疫病は、王都エルサレムに及ぶところでしたが、エブス人アラウナの麦打ち場のところで終わりました。他方、ダビデは疫病に苦しめられて民が死ぬのを見て、次のようにいうのです。「御覧ください、罪を犯したのはわたしです。わたしが悪かったのです。この羊の群れが何をしたのでしょうか。どうか御手がわたしとわたしの父の家に下りますように」ここにイスラエルの王の真価があります。イスラエルの王とは、民の罪を引き受け、執り成す存在なのです。そのように神の御支配が実現するからです。

#### 【18～25 節】

そこで主なる神は、再びガドをダビデに遣わし、「エブス人アラウナの麦打ち場に上り、そこに主のための祭壇を築きなさい」というのです。犠牲礼拝による罪の赦しをもたらすためです。

ダビデは、主の御言葉にしたがって、エブス人アラウナから麦打ち場を買い取り、そこに祭壇を築き、犠牲をささげて、疫病は終焉します。

この時、エブス人アラウナは、非常に素直に自分の土地を手放しています。それは、もちろん彼も、この度の疫病の只中であって罪の赦しを願い求めてきたことは、想像に難くないでしょう。しかし聖書は、そのようなアラウナの気持ちよりも、主なる神が、先に彼の土地を入手すべきことをいっています。つまり人間の側の善良さの前に、主なる神の御心があり、それが一つひとつ実現していくのです。

エブス人アラウナの土地は、やがてエルサレム神殿の建設用地となります。しかしだからといって最初からダビデの「人口調査」という罪は、そのためであったと合目的に理解してはならないでしょう。人間の側の計画へと落とし込み、整理してはならないのです。逆に、神の計画とその実現に対して人間が従っていくのです。実際、神の救いのご計画は、ここに見られるように、人間との対話をとおして、裁きをとおしての救いによって、一步一步実現していくものなのです。